



“ツールボックスミーティング(TBM)” により、事故を撲滅！



公益財団法人
国際人材育成機構
社会保険労務士
原田 芳幸

日々、作業の場所・内容が変化する現場では、「ツールボックスミーティング(TBM)」を行うことにより、危険を予知して、事故を撲滅する取組が重要です。その進め方を紹介します。

01 ツールボックスミーティング(TBM)とは

ツールボックスミーティング(TBM)は、その日の**作業開始前**に行う**作業の打ち合わせ**のことです。TBMは、「ツールボックス(道具箱)」の近くで行われるため、このように呼ばれています。その**本質は「危険予知活動」**です。建設業や造船業などで広く取り組まれています。これは毎日の作業場所や作業内容が変化していることから、作業開始前の、その日の作業の状況等の確認が重要です。

02 TBMの流れ

一般的には、**朝の作業開始前に5分から10分程度**の時間を使って行われます。必要に応じて、昼食後の作業再開時や作業の切替え時に行うこともあります。職長が中心になって、その日の作業範囲、段取り、分担などを明らかにし、**全員で安全衛生のポイントなどを確認**します。

03 TBMの具体的な進め方

1 作業内容の確認

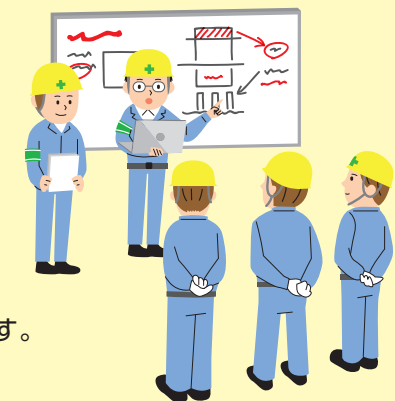
- (ア) その日の作業内容を確認し、分担等の**担当者を明確**にします。
- (イ) TBMの**目的は「危険ポイント」の回避**です。
- (ウ) 作業内容を詳細に確認し、“危険ポイント”を浮き彫りにしていきます。

2 “危険ポイント”の確認

- (ア) 作業内容の確認を終えたら、“危険なポイント”を確認します。
- (イ) 日々変化する職場で、その日の作業において何が危険かを話し合います。

3 事故を発生させない方法の確認

- (ア) “危険ポイント”が明らかになったら、事故を起こさないための方法を話し合います。
- (イ) 抽象的な対策ではなく、事故を起こさない**具体的な方法を考えます**。
- (ウ) 事故を発生させないために、どのように行動を変えるのかを、具体的に示し合います。



04 実習生にとってのTBM(事例)

- (ア) TBMの実施の際に、「ボード」を使用します。
- (イ) 「ボード」(通称「KYボード」)に「本日のKY活動(危険予知活動)表」と上段に記載し、作業者の名前を記入し、「危険のポイント」欄、「対策のポイント(私たちはこうします)」欄を設けます。
- (ウ) 全員で作業内容を確認した後、各作業者が自分の作業における危険と対策を記入し、発表します。
- (エ) 日本語に慣れない実習生は、当初はひらがなを使用し、慣れてくれば漢字で記入する人も出てきます。
- (オ) 各自の記入内容に応じて、職長が一言ずつコメントを記入し、KY活動を通して、日本語能力の向上につながっています。
- (カ) 毎日のKY活動に参加していく中で、早く日本語を習得し、半年くらい経つと日本語でのKY活動への参加も、何ら問題なくなるという例も多く見られます。

月 日 本日のKY活動表	
作業内容	
危険のポイント	
対策のポイント	
会社名	リーダー名 作業員 名

参考:厚生労働省
「R4年度外国人労働者安全衛生管理の手引き」